

平常時には防災対策の施設・設備を活用して
給食提供しながら省エネも実現いたします。



3階

展示学習ホールには、体験用の手洗い消毒器、手洗いチェッカー、エアシャワー、回転釜が設置され、厨房機器等の体験が行えるほか、防災や食育に関する展示物を見学することができます。研修室については、定員45人と42人の2室があり、施設見学の説明会場や防災・食育講座等で使用します。また、災害時には、いずれも食料関係救援物資の搬入搬出作業や集積場として使用します。



研修室



展示学習ホール

屋上

マイクロコージェネレーションは普段は都市ガスを使って発電したり、その排熱を利用した給湯も同時にできる省エネ設備。災害時には備蓄しているプロパンガスを都市ガスに変換して最低限の電気を供給。炊飯室内にあるコンセントにも電気を供給して炊飯に必要な電力を確保します。その他、ソーラーパネルや発電設備を設置して普段消費する電力の一部を補助したり、施設内の全照明にLEDを採用して消費電力を抑えるなど環境にも配慮した施設となっています。



マイクロコージェネレーション



ソーラー太陽光パネル

- 構造：鉄骨造3階建
- 敷地面積：2,482.46㎡
- 延床面積：3,871.54㎡（付属棟除く）
- 応急給食数：60,000食（災害時の3日間）
- 学校給食数：6,000食/日（平常時の最大食数）
- 主な設備：
 - ・受水槽容量：125㎡
 - ・予備燃料備蓄量：2,600kg（LPG）
 - ・マイクロコージェネ：4台
 - ・太陽光パネル：10kw



武蔵村山市防災食育センター

〒208-0022 武蔵村山市榎三丁目30番地の1
TEL：042-516-9020
FAX：042-516-9040



※この施設は、防衛省防衛施設周辺民生安定施設整備事業（まちづくり支援事業）補助金及び特定防衛施設周辺整備調整交付金を活用し整備しました。

防災編

武蔵村山市 防災食育センター



武蔵村山市

人と人との絆をつむぐ
誰もが活躍できるまち むさしむらやま

地域の防災対策拠点として災害に備える武蔵村山市防災食育センター

災害時に炊飯や加熱調理ができる設備機器を備えて、炊き出し対応可能な施設であると同時に、ご飯や汁物、防災備品を備蓄。災害時には食糧や防災備品の受け入れ拠点として計画された施設です。平常時には、防災用の炊き出し機能を活用して給食を調理。各学校へ配送しています。また、研修室や展示学習ホール、見学窓を設置して、地域の食育学習の拠点としても活用いたします。



納米庫/炊飯室



① 炊飯室[連続炊飯システム]

炊飯室の連続炊飯機は、普段、都市ガスで1時間に 6,000 食分のご飯を炊いていますが、災害で都市ガスが止まってしまった場合にはプロパンガスへ切り替えて炊飯可能。屋外に備蓄しているプロパンガスボンベのガスを使って 1 日 20,000 食のご飯を3日間提供出来る能力を備えています。



ガス切り替えバルブ

レバー操作で、都市ガスから屋外に備蓄しているプロパンガスボンベのガスへ簡単に切り替え可能。



非常用コンセント

ガスを電気に変えるマイクロコージェネレーションと繋いで災害時の炊飯用コンセント電力を確保。



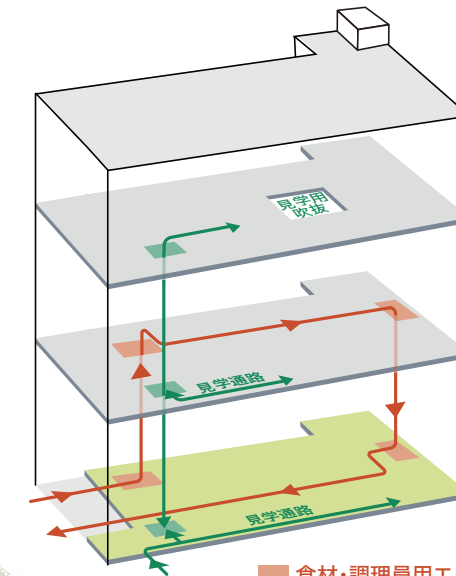
② 納米庫[備蓄機能]

納米庫には、応急給食用として常に6,000kgのお米を備蓄。給食に備蓄米を使用しながらお米を補充するローリングストックでお米を循環利用しています。



③ 2ウェイリンク回転釜

平常時は都市ガスを、災害時にはプロパンガスボンベを繋いで加熱調理可能。キャスター付きで、災害用出入口から屋外に移動して炊き出し対応できます。



■ 食材・調理員用エレベータ
← 食材・調理の流れ(ワンウェイ)

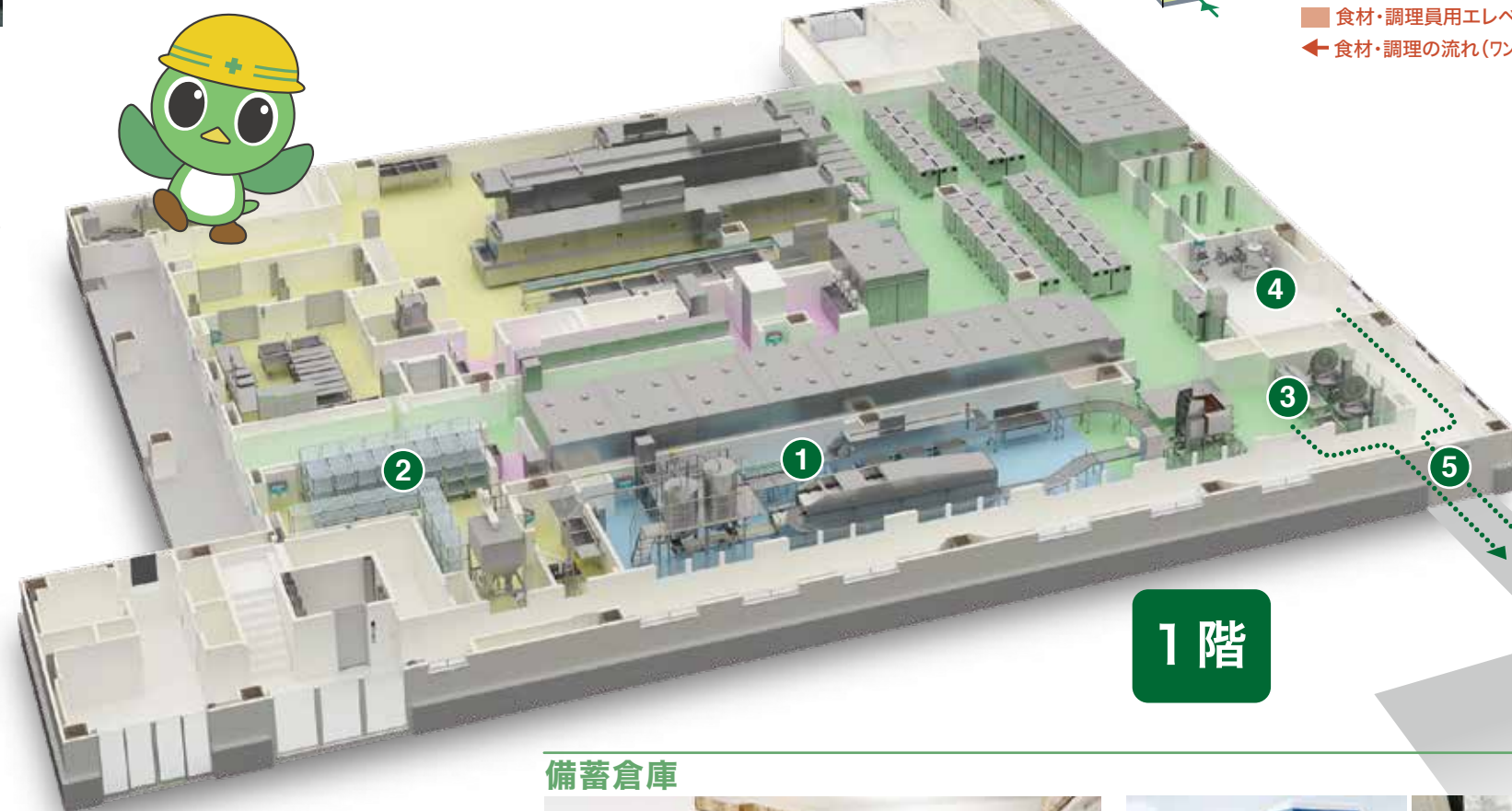
■ 職員・見学者用エレベータ
← 職員や見学者の流れ

屋上 マイクロコージェネや発電機、ソーラーパネルなど各種設備を屋上に設置

3階 3階の研修室や展示ホールは災害時に非常食や備品の受け入れスペースに利用

2階 2階は、平常時の給食調理スペースとして活用

1階 非常時は1階の炊飯室でご飯の炊き出しや汁物調理が可能
防災用備蓄庫も完備



1 階

公園(防災広場)設置予定地

屋外設備



PAジェネレーター



LPガス貯蔵庫

普段、都市ガスを使っていますが地震による揺れで地中にあるガス管が折れてガスが止まってしまう可能性もあります。そこで持ち運びと備蓄が可能なプロパンガスボンベのガスを「PA ジェネレーター」で都市ガスと同等のガスに変換して連続炊飯機や回転釜に供給する事で応急給食を提供できる体制を整えています。



貯水槽

水は常に大型の受水槽に溜めながら使用しているから災害時に給水管が破損して水が使えない場合でもここから直接水を受給できます。



テント付き簡易トイレ

災害時にトイレが使用できなくなる事を想定してテント付き簡易トイレを備蓄。屋外の専用マンホールの上に設置する事で簡易的なトイレとして使用できます。



簡易トイレ用マンホール

備蓄倉庫



④ 防災用備蓄庫

備蓄倉庫には、汁物用の保存食材など60,000食分を備蓄しています。災害発生後の3日目から最低3日間、市内の避難生活者を最大約1万人と想定して1人1日2食、1食あたり、おにぎり2個と温かい汁物を提供できる様に備えています。



おにぎり成形機

